

## 国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成30年度第2回）議事録

日 時：平成30年5月25日（金）10:00～11:30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

### I. 前回（平成30年度第1回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を松本理事と小野監事に依頼。

### II. 審議事項

1. 平成31年度投資計画、財政投融资要求等資料に沿って説明され、了承された。

### III. 報告事項

1. がんゲノム情報管理センターの設置資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・自由診療によるパネル検査等が増えていった場合、集約される情報範囲の低下につながるおそれがないか。今後、適応外使用への対応等が重要。
- ・保険適用を前提として、質がコントロールされた情報を集約していくことが重要。適切なルールによる適応外使用や情報保護の整備とあわせ、厚労省にはたらきかけていく。
- ・情報活用の在り方には爆発的な進歩があるので、データベース活用等の専門家と協力していくことも重要。
- ・インフォームドコンセントについて、患者側の負担が大きくなっているため、これ以上負担を増やすことなく理解を得られるよう工夫を期待。
- ・情報の二次利用は極めて重要であり、うまく利用できないといった状況にならないよう、協議の場など環境づくりが必要。
- ・がん以外の領域でも注目されており、しっかり取り組んでいくことが大切。

2. がん情報提供機能の再構築

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・ 目指す方向を実現していくためには、人員、予算など政府からの支援が重要。
- ・ 厚労省からの委託により診療ガイドライン作成等を行っているマインズなどと、うまく協力できるのではないか。
- ・ 治験情報のニーズが患者側に大きいので、企業からの協力を得やすくなることを期待。また、エビデンスが不十分な治療を伝えていくことも大切。

### 3. 知財・産学連携の状況

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・ NCCが有するデータベースはAI活用により大きな価値を生む可能性があるため、共同研究の中でも新たな権利の在り方の工夫を考えてみたい。
- ・ 間接経費の割合が下がらないよう、さらに調整していくことも必要ではないか。

### 4. 厚生労働省「NCの今後の在り方検討会」への対応

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・ 最近、複数組織間のガバナンス共有を進めようとする雰囲気が社会的にあるが、実際のメリットは見えにくい面もあるので、慎重に検討すべき。
- ・ 組織間の統合を形式的に進めるより、外部との柔軟な組合せによる共同を進め、NCの機能を強化していくことが重要。

### 5. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

### 6. 広報、寄付実績

資料に沿って報告された。

### 7. 4月分医業指標等

資料に沿って報告された。